

2022（令和4）年 8月 8日

大分県後期高齢者医療広域連合議会

22番 日本共産党 斉藤 由美子

【一般質問】

大分市選出、日本共産党の斉藤由美子です。通告に従い、一問一答で質問いたします。

1. はじめに、新型コロナの影響についてです。

この間、新型コロナによる外出自粛や、受診控えが高齢者の生活や健康に様々な影響を及ぼしています。

日本高齢期運動連絡会が2022年5月に公表した資料には、高齢者からの様々な声が寄せられています。一部抜粋ですが、

○行動範囲が狭くなった。文化的行事に参加はゼロ。これで人間の生活といえますか。息をして寝ているだけ。

○私は年金で生活しています。出費が多くなると生活費がマイナスになり借金になるので何にも手が出ずに「悩む」生活です。

○想像力を働かせ、一カ月6万5千円で、住居・食費・医療・光熱・教養(TV・新聞・通信)の項目で生活できる予算をつくっててください。お隣の93歳の独居の女性は、転倒して怪我をしても通院できません。皮下出血もあるのに。

○身内(姉77歳、兄79歳)が自殺した。安心・安全な老後がおくれなかった。眼鏡を新調したかったが我慢している。

…こうした声はまさに命にかかわる悲鳴です。

先週も、入院中の女性から電話が入り、予想以上に長引いた入院代が払えない、いくら考えても手立てがない…と相談が寄せられました。生活保護を受給するにはギリギリのところから外れ、つましく生活していても、病気や怪我に対応できなくなっている高齢者が大勢おられるのが実態です。

新型コロナなどの影響で、特にここ数年は、親族にもお金の相談ができそうにない、家族にも様々な生活設計がありとても余裕がない…こうした事態への対応が急務となっています。75歳を過ぎてもなお、年金だけでは暮らせないと自営業を続けている方、パートに出ている方でも、お金に余裕があるわけではありません。

保険料は収入に応じているとされますが、その負担は小さくなく、生活に大きな影響が及んでいます。①保険料減免の拡充、徴収の猶予の実施、各市町村と協議し法定外繰り入れなども含め検討すべきと考えます。見解を求めます。

2. 医療費2倍化について

これまで何度も国に中止を求めるよう申し上げてきた窓口負担の2倍化が、とうとう10月から実施されようとしています。今回、保険証更新の際に同封された文書には、2割負担の文言が実にサラリと書かれていましたが、9月末に通知を手にして、初めてびっくりする高齢者も少なくないと思います。

大分県保険医協会が、本年3月1日～3月31日までの一か月間、受診した全ての医療機関と薬局の窓口で支払った医療費の個人負担額をそれぞれ記録してもらい実態調査を行っています。調査票の配布は212枚、そのうち回答者は68人(32.1%)で、年齢の平均は男女合わせて80.6歳で、受診した科は多い順に、内科48人、歯科34人、整形外科28人、眼科15人、その他、皮膚科、循環器科などと続いています。一か月間の医療費の平均は薬代も含め、一ヶ月で平均「5,290円」ですから、3年間の激変緩和措置を経た後は、ひと月で「10,580円」になるわけです。保険医協会はこの結果に対し、「収入に占める医療費の割合の高い後期高齢者にとって、コロナ禍、年金削減、物価高などの状況下における窓口負担の倍増は、今以上に生活を困窮させ、「受診控え」「食費の節約」など、健康に悪影響を及ぼす対応を取らざるを得ない状況に追い込まれることが懸念される」と結論付け、また、『受診控え』は症状の重症化につながるかと指摘しています。

これまで、2倍化中止を国に求めることはしないとの答弁でしたが、医療費負担の2倍化は高齢者の健康悪化につながり、その対応は広域連合の医療給付に影響し、最終的には市町村がその責任を負うことになるわけです。2倍化は中止するよう求めるべきです。

②今後、こうした生活習慣の変動にどのように対応し、高齢者の健康を維持していくのか、見解をお聞かせください。

3. それでは、今後の健康維持について具体的にお聞きします。

先ほどの、日本高齢期運動連絡会の資料には、医療費2倍についての声も紹介されています。

○歯科・眼科を含め5か所の医者通い。通院のみだが昨年は1年間で7万円の支払いだった。白内障が出てきていると言われていたが2倍になったら大変な出費になる。

○(親は)幸い眼科と内科の定期健診ですんでいるが、一人暮らしで91歳。これまで3回骨折で入院した。長男の自分が支えての1人だが、私も年金暮らし。

○夫を介護しているが同居の息子がいることが理由で、昨年6月からオムツの支給がなくなった。国はわずかな金額でも削ろうとしている。不信感でいっぱい。

○年金も減り、2倍化の恐れもあるのでパソコンをやめ、車もやめた。孤立化が深まりそう。助けてほしい。

○夫婦で医者代がかかる。自分が、内科・眼科・整形外科、夫が脳外科・眼科・内科。75歳になったら半分になると話していたのに。何とかしてほしい。

○歯科で前歯をやり替えた。2回の通院で12,260円かかった。2倍なら24,520円、とてもやり替える気がしない。年金は下げているのにどうして2倍化するのか…等々、ここでも多くがやりきれない声ばかりです。

病院代と薬代の2倍化は令和7年9月30日までの間、3千円を上限に超過分は払い戻される措置がとられますが、一旦は自己負担です。いま、高齢者の暮らしにそれだけの余裕はありません。③窓口で医療費が払えない高齢者に対して、どのように対応するのか、見解をお聞かせください。

4. 健康保険証のデジタル化についてです。

マイナンバーカードの登録件数は、6月末現在、全国で人口比45.3%、大分県では44.8%。そのうち保険証利用登録は、全国で11.3%と聞いています。

これまで、マイナンバー関連事業では、トラブルの発生や、専用機器の普及の遅れなども生じており、特に、保険証利用については広がっていません。国は、マイナンバーカードの普及が進まないことから、強制的にマイナンバーカードの保険証利用を進めようとしています。

しかし、保険証のデジタル化には、多くの方がなじんでおらず、案内や説明などで、医療現場に新たな負担を課すこととなります。特に高齢者には、丁寧な説明が繰り返し求められると思いますが、現在、新型コロナ第7波の感染拡大で、医療現場では深刻な医療スタッフ不足も生じており、当面の医療体制の維持は重要な課題です。少しでも病院の負担を抑えることこそ必要であり、保険証のデジタル化は、コロナ対応に逆行すると考えます。

⑥国に対し、強制的な保険証のデジタル化はやめるよう求めるべきと考えます。見解を求めます。